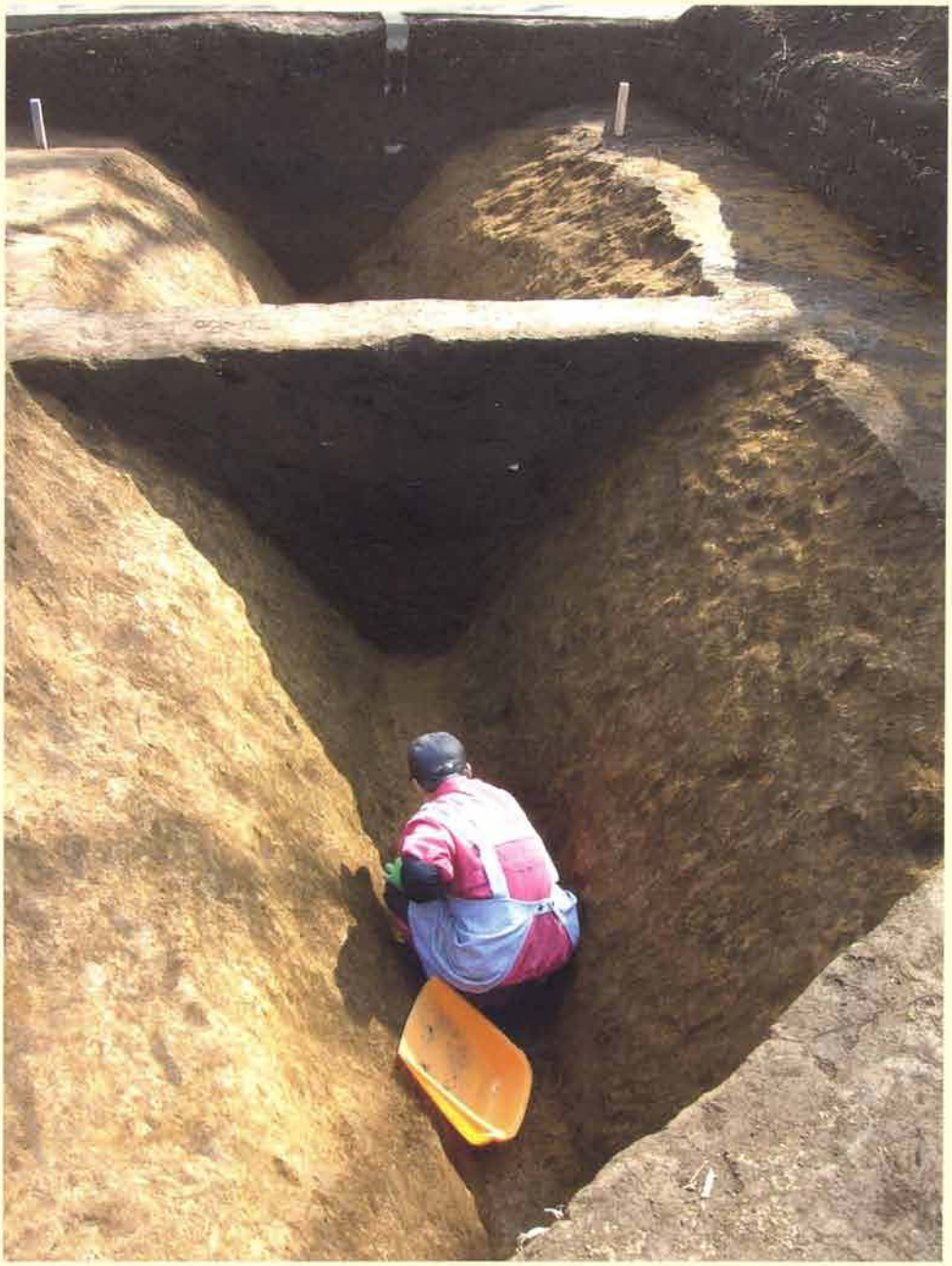
三芳町の文化財・考古3

本村南遺跡第 11 地点発掘調査の概要

The outline of Honmuraminami site 11nd spot excavation



1号溝調査風景（北西側から）

2009. 3

三芳町教育委員会

本村南遺跡の概要

本村南遺跡は、埼玉県入間郡三芳町大字竹間沢 684 番地付近に広がる遺跡で、地形的には武蔵野台地北東縁辺部に位置し、狭山丘陵から流れ出し武蔵野台地を開析して新河岸川に合流する柳瀬川中流域の左岸台地上に広がる。縄文・弥生・中世にわたる遺跡で、これまで開発に先立ち 10 箇所が調査されている。

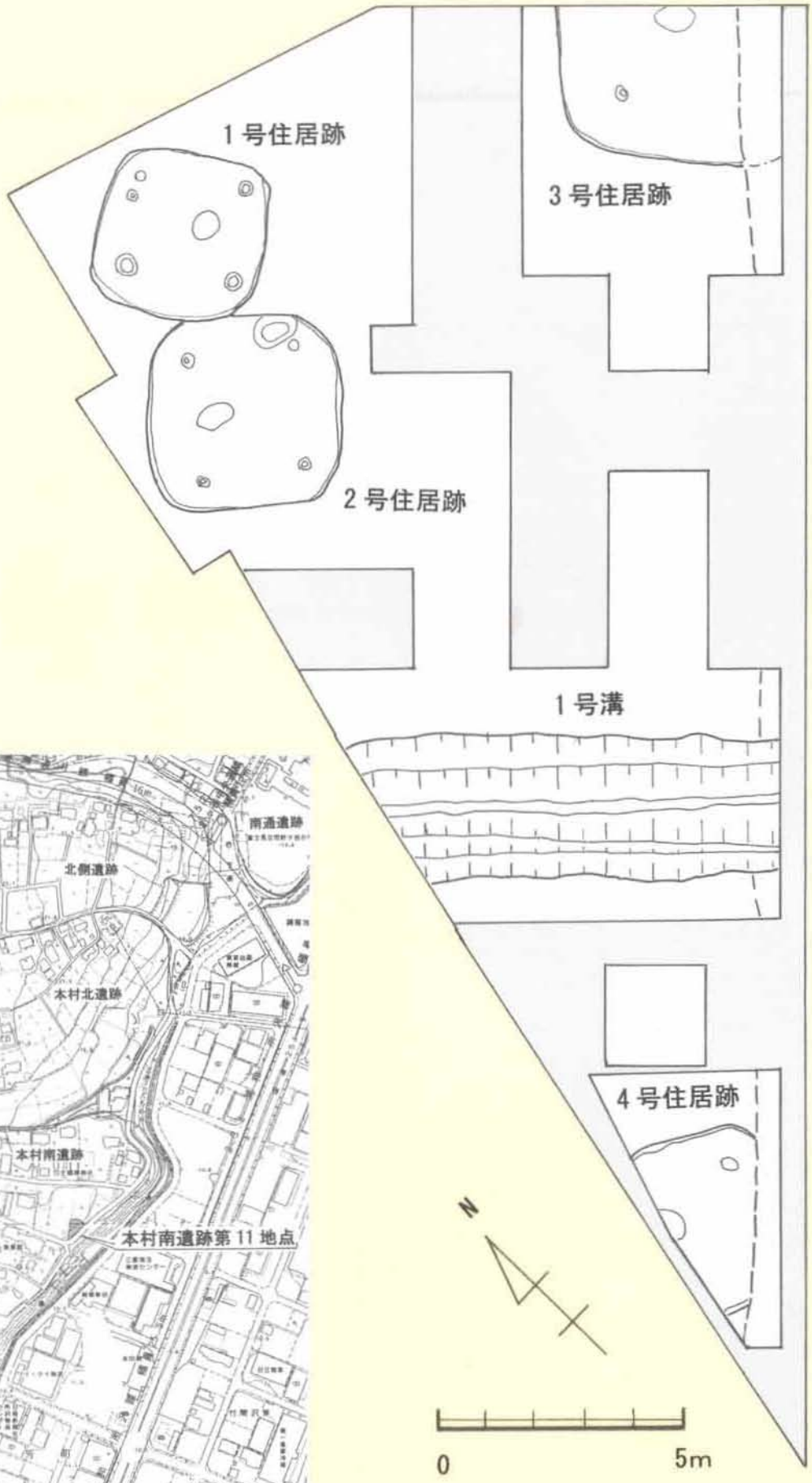
ここで紹介する第 11 地点は、携帯電話基地局鉄塔建設に先立つ調査として、2007（平成 19）年 12 月 7 日～2008（平成 20）年 1 月 11 日にかけて実施し、調査面積は僅か 250 ㎡だったが、弥生時代の住居跡 4 軒、溝（大溝）1 条が発見された。

4 軒の住居跡は、1 号溝を挟んで南側に 1 軒（4 号住居跡）、北側に 3 軒（1・2・3 号住居跡）が発見された。南側 1 軒（4 号住居跡）は弥生時代中期に相当する住居跡であり、溝の北側からは弥生時代後期の住居跡 3 軒が発見された。溝北側の 3 軒の住居跡は、いずれも遺物が少なく時期を決定しにくい様相もあるが、1 号住居跡と 2 号住居跡は重複し、前後関係は 2 号住居が古く、1 号住居が新しいことが判明した。

溝は、長さ約 8.0m が調査されたに過ぎないが、確認面（ローム層上面）で幅約 2.65m～3.30m をはかり、確認面から底面までは深さ約 1.50m～1.60m、底面は幅 0.15～0.26m と極めて幅が狭い、断面がほぼ V 字状の大溝で、覆土からは上中位層から大量の土器や川原石等が投げ捨てられたような状態で発見された。この土器の様相から、溝の廃絶時期は弥生後期末と判断された。また、溝の形成された時期については、上中位層からの土器以外には検出がなく、判定はできなかった。性格については、調査範囲が限定されていたため判定しがたいが、環濠の可能性も否定できない。集落の広がりなど周辺調査を進め、結論を得たい。なお、溝は開発側と協議し、破壊することなく埋土保存された。

遺構名	寸法	概要・特記事項
1 号住居跡	長軸　N－33－W 規模　長軸 3.40m、短軸 3.38m 深さ　確認面から深さ 0.20～0.24m	隅丸のほぼ方形、小型住居跡。床面は全面貼床で締まりはあるが、北側壁付近が軟弱であった。牛蒡堀り機の掘削により、床面の撹乱がひどく保存状態は良くなかった。
2 号住居跡	長軸　N－48－W 規模　長軸 4.0m、短軸 3.95m 深さ　確認面から深さ 0.12～0.21m	隅丸のほぼ方形、小型住居跡。床面は軟弱。貼床は認められない。牛蒡堀り機の掘削により、床面の撹乱がひどく保存状態は良くなかった。
3 号住居跡	長軸　N－37－W 規模　長軸 3.74m、短軸 3.26m （確認された範囲） 深さ　確認面から深さ 0.18～0.24m	北東側は調査区外、南東側は道路境界ブロック塀工事により撹乱されており、全容が確認できなかったが、炉の位置から推定し、大型の住居と思われる。牛蒡堀り機の掘削により、床面の撹乱がひどく保存状態は良くなかった。
4 号住居跡	長軸　N－68－W 規模　長軸推定 3.80m、短軸 3.78m 深さ　確認面から深さ 0.20～0.24m	東側は道路境界ブロック塀工事により撹乱、西側は調査区外にかかり完掘はできなかった。炉の位置から、西側には約 1～2 m の広がりをもつと考えられる。床は全体に軟弱であったが、全面貼り床で、二重に掘込みが確認された。炉付近から南側にかけて掘込みが深い。
1 号溝	幅　約 2.65～3.30m（確認面） 底面　幅 0.15～0.26m 深さ　約 1.50～1.60m 長さ　約 8.0m（確認された範囲）	断面がほぼ V 字状の大溝で、覆土からは、上中位層から大量の土器や川原石等が投げ捨てられたような状態で発見された。溝は中位までは比較的早く埋まり、掘り返し等の痕跡はなく、中位より上部は土器や川原石等を大量に廃棄されながら比較的短期間に埋め戻されている。

本村南遺跡第 11 地点全体図



本村南遺跡位置図

1号住居跡

1号住居跡（手前）・2号住居跡（奥）（北東側から）

1号住居跡調査風景（東側から）

1号住居跡調査風景

1 号住居跡土器出土状況（床面）と
復元された土器（上）（S=1/3）

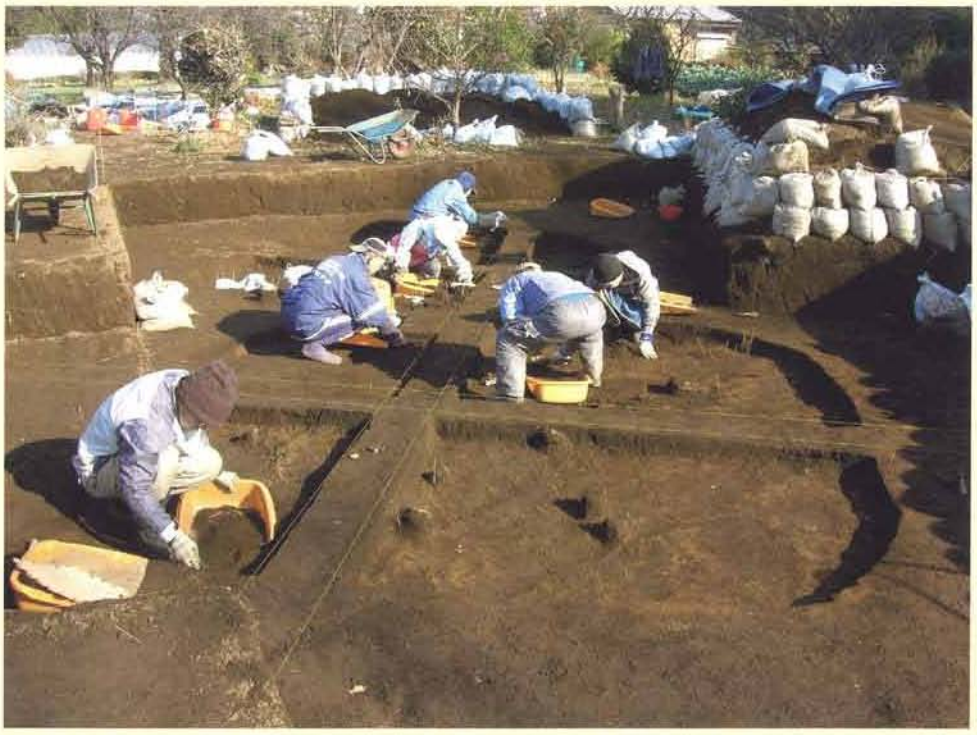
1号住居跡炉検出状況

1号住居跡炉内土器出土状況

1号住居跡炉内出土土器（S=1/3）
（耕作土より数点が出土し、接合された）

２号住居跡

２号住居跡（右側が１号住居跡）（東側から）



２号住居跡調査風景
（南西側から）

2号住居跡炉検出状況

2-1　　炉内出土土器（S=1/3）

炉の状態と炉内土器出土状況

2号住居跡出土土器（破片）（S=1/2）

2-2

2-3

2-4

＜土器の拡大写真＞

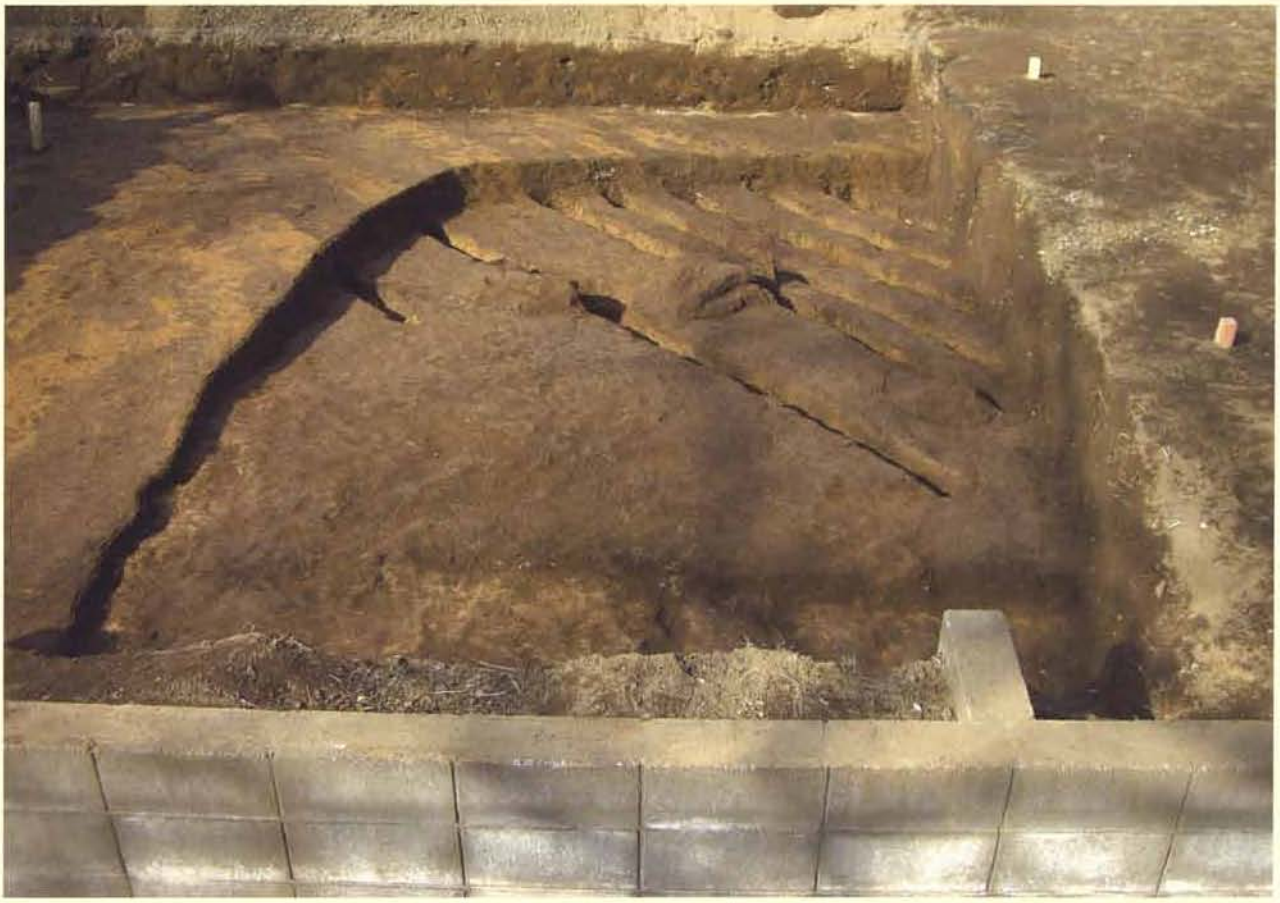
2-1　土器胴部磨き痕

2-1　口縁貼付痕

2-2　縄目痕

2-4　条痕

3号住居跡



3号住居跡（東側から）

3号住居跡炉検出状況

3号住居跡出土土器（S=1/2）

3-1

3-2

3-3

3-4

3-5

3-6

3-7

4号住居跡

4号住居跡
（北側から）

4号住居跡土器出土状況

4号住居跡掘方完掘状況（北東側から）

4号住居跡出土土器（S=1/3）

4-1

4-2

１号溝

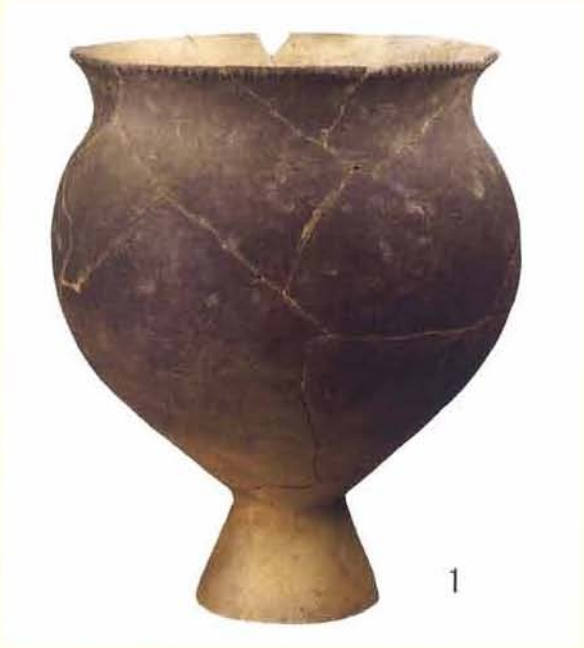
１号溝（北側から）

１号溝土層断面

１号溝（東側から）

1 号溝の遺物は、溝の上中位層からまとまって検出された。土器は、溝に投げ込まれたような状況で発見され、また、下の写真にあるように礫等も同時に投げ込まれたらしく、土器と共に大量に検出された。

1 の台付甕は、検出された土器の中でもほぼ完形に復元されたものである。他の土器片は、完形に復元できたものは少なかったが、割れ口等には磨耗痕が少なく、廃棄の際に割れたものが多いと推定される。



1 号溝から検出された台付甕と復元された台付甕

1号溝調査風景

1号溝遺物出土状況

1

<土器の拡大写真・1>

口縁から胴部

胴部付近（内面）

台付脚部

2

<土器の拡大写真・2>

口縁から胴部

※2 の口縁だが、接合面が少なく未接合

胴部付近

胴部付近（内面）

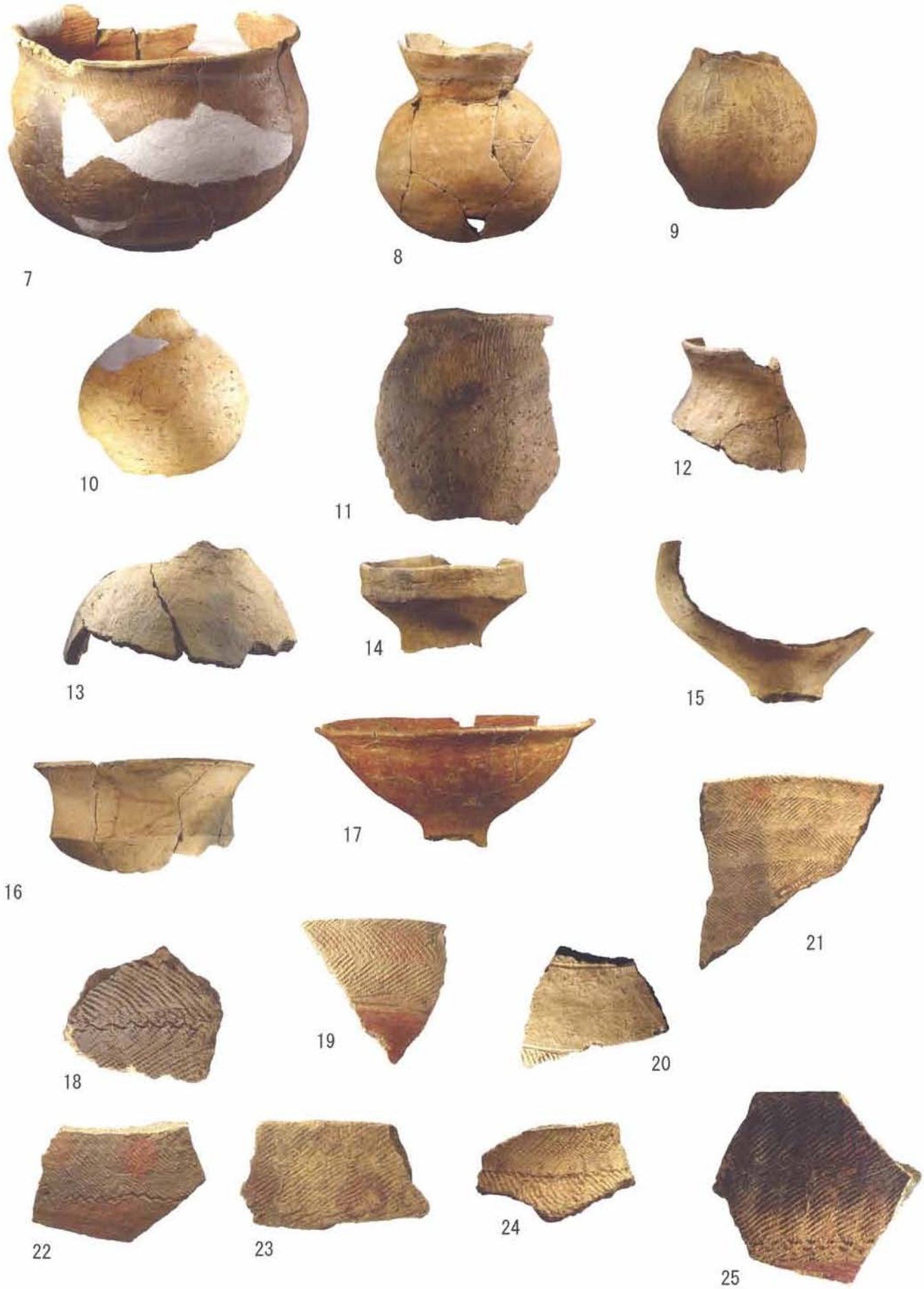
3

4

5

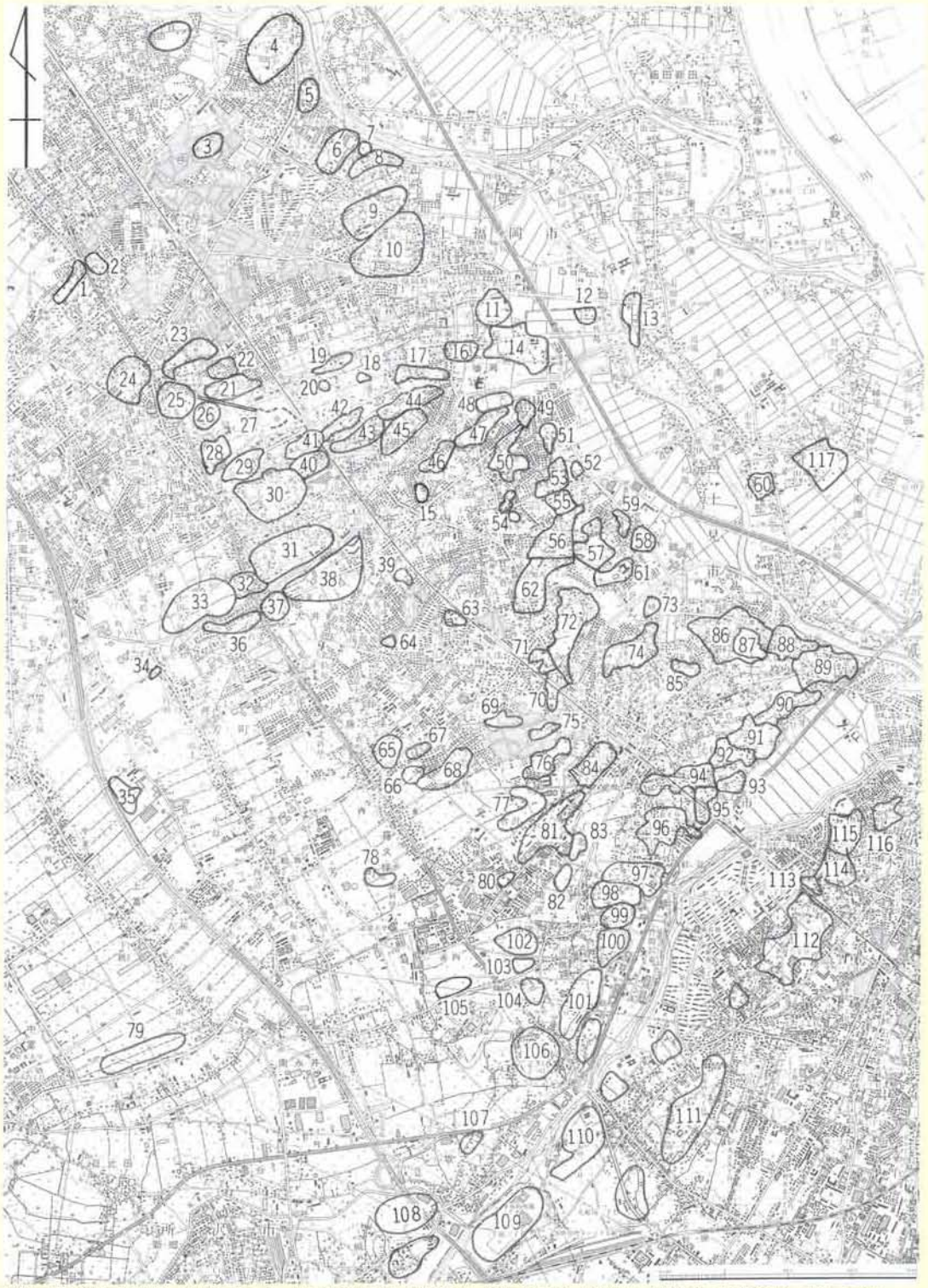
6

1号溝出土土器（S=1/3）



1号溝出土土器（7～17：S=1/3，18～25：S=1/2）

周辺の遺跡



1鶴ヶ岡 2西 3北野 4川崎 5ハケ 6上福岡貝塚 7権現山 8滝 9長宮 10松山 11鷺森 12伊佐島 13上内出
14宮廻 15西渡戸 16鍛冶海戸 17稲荷前 18市海道 19稲荷久保北 20稲荷久保南 21東久保 22江川東
23鶴ヶ舞 24亀居 25江川南 26東久保西 27亀久保堀 28東中学校西 29東久保南 30西ノ原 31本村
32大井氏館跡 33小田久保 34宮前 35中東 36西台 37大井戸上 38東台 39上沢 40中沢前 41中沢 42外記塚
43神明後 44苗間東久保 45浄禅寺 46渡戸 47東渡戸 48薬師前 49貝塚山 50羽沢 51大谷 52山室谷
53山室 54羽沢前 55平塚 56宮脇 57黒貝戸 58宿 59折戸 60山形 62谷津 63権平沢 64浅間後 65藤久保東
66藤久保東第二 67藤久保東第三 68俣埜 69本目 70八ヶ上 71新田 72御庵 73山崎 74打越 75節沢 76関沢
77三芳唐沢 78南新埜 79南止 80新開第二 81新開 82北原 83北原第二 84松ノ木 85松山 86氷川前
87水子貝塚 88東前 89観音前 90神明 91東台 92正網 93正網南 94栗谷ツ 95別所 96北通 97南通 98北側
99本村北 100本村南 101古井戸山 102生出窪北 103生出窪 104生出窪南 105通西 106西上 107甲館出
108城 109下宿内山 110頭戸 111新開 112西原大塚 113新邸 114中道 115城山 116中野 117難波田氏館跡

三芳町の文化財・考古３　本村南遺跡第 11 地点発掘調査の概要
発行日：2009（平成 21）年 3 月 19 日　発行：三芳町教育委員会　印刷：深志印刷株式会社